

8・5 県民大会に参加しよう!!

8月5日(日曜)
午後3時から
宜野湾市の宜野
湾浜公園にて、
「オスプレイの沖
縄配備に反対する
県民大会」が開催
されます。

同大会は、県議
会議長・県市長会
会長・県婦人連合
会会長・連合沖縄
会長の4氏を当面
共同代表として、
実行委員会形式で
大会運営がなされ
ます。7月19日の
段階で、実行委員
となった団体は21
団体です。主な団
体は、県農協中央
会・県医師会・沖
縄弁護士会・県老
人クラブ連合会・
県PTA連合会、
県青年団協議会・
平和運動センター

支部協だより

第105号

発行所
NTT労組退職者の会
沖縄県支部協議会
沖縄県浦添市城間4-35-2
TEL.098-870-7101
FAX.098-875-7450
責任者
黒島善市

バスで県民大会へ行く方へ

- ①コンベンション前バス停で止まる
バス路線
琉球バス…26番、55番、99番
沖縄バス…32番、61番、
- ②真志喜バス停で止まる
バス路線
琉球バス…23、28、29、63、
120、223、228、
263番
沖縄バス…28、29、77、120、
228番
東陽バス…31番

バス賃無料時間帯=朝11時~16時迄

等でもまだまだ参加団体は増えるものと思われれます。

この県民大会は、実行委員会の参加状況を見てもわかるように「**県民の民意**」を象徴的に表していると思えます。

それでもなお、オスプレイを沖縄へ強行配備する政府の政策は、沖縄県の民意に対する差別そのものです。会員の皆さん、家族揃ってこの大会に参加し、意思表示をしてオスプレイの沖縄配備を撤回させましょう。



献鶴する高石中央協副会長(二人目)

なお現地の海浜公園への道路は、過去の県民大会の状況から判断すると開始1時間前から混雑すると思われる。当日は各バス会社の路線バス運賃が片道のみ無料になります。

慰霊の日に改めて反戦平和を誓う



会長 黒島善市

6月23日午前9時50分から、摩文仁の通魂の塔で慰霊祭が開催された。約1000名が参加したが、遺族の方

それは、辺野古や、東村高江のヘリパット建設など現在の政策と、基地負担の早期軽減に全力を尽くすという挨拶の内容が、あまりにもかけ離れており、かつ美辞麗句の挨拶はむしろ、むしろくさえた。

さらに、仲井真県知事や

カテナ基地周回行動に参加して

屋良宣正

各界代表が挨拶の中で、これほど政府の基地政策を批判したことは、かつてなかったことであり極めて異例なことと思う。

「国の安全保障」と「沖縄の基地負担軽減」を両天秤にかけ、県民にこれ以上の軍事基地の負担を強いることに断固反対する。

8月5日の「オスプレイ配備に反対する県民大会」に参加しよう。行動しよう。

平和を推進することを誓い合った。

ところで、慰霊の日の「沖縄全戦没者追悼式」での、野田総理大臣の挨拶は残念ながら心に打つものは全く無かった。



6.23慰霊祭・遞魂之塔にて

20回の節目を迎えた「情報労連2012沖縄ピースすてーじ」が、6月23日25日の日程で、全国各地から350名余の組合員が参加して取り组まれました。

6月24日の「カテナ基地周回行動」には、退職者の会中央協議会(12名)、沖縄県協議会(4名)を含め、総勢500名余の参加者がありました。

退職者の会メンバーは、嘉手納町水釜く沖縄市八重島公園の区間を、現役組合員とともに、「オスプレイの



全国から派遣された退職者の会員

面の学習行動を実施)

最も現役に近い私(屋良)は、実行委員会(支部執行部)の一員として参加してきた現役時代よりも、一参加者として気楽に歩けるだろうとの思いを持ちつつ、無理を承知で現役組合員と同一行動を行いました。少

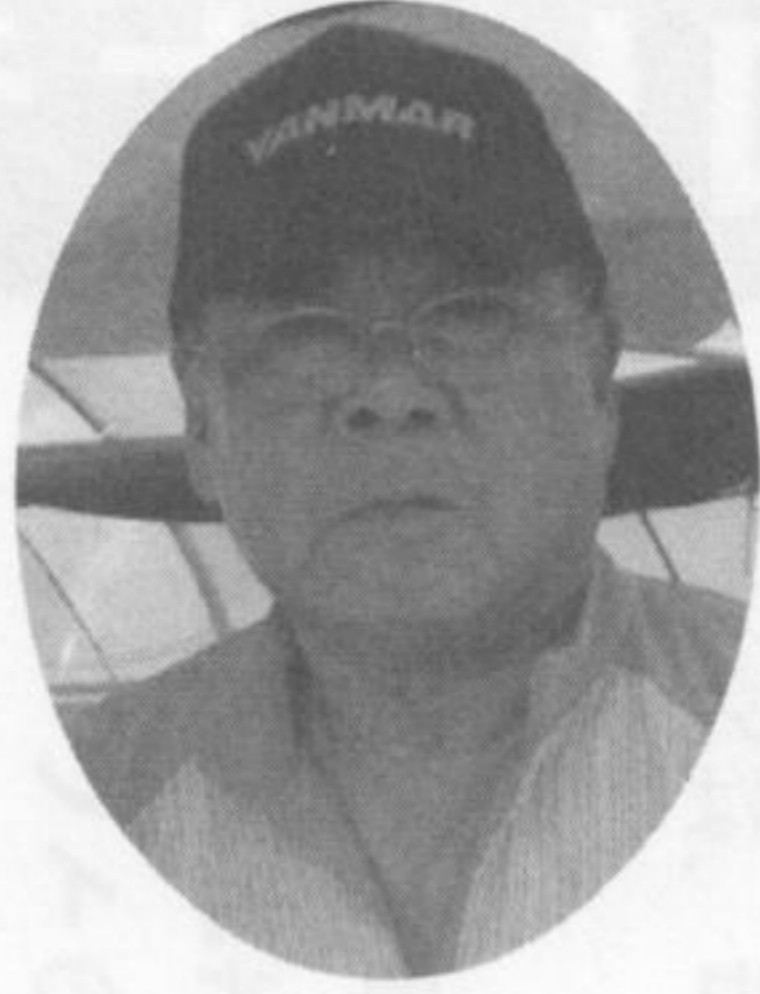
(嘉手納道の駅裏)まで辿り着くことができました。久々の「カテナ基地周回行動」に参加して、沖縄の置かれた現実をしっかりと見据えたうえで、息の長い運動になることを覚悟した取り組みを行なっていかなければならないことを痛感・再認識しました。来年は「昔を思い出して」一緒に歩いて見ませんか。

生き生き通信

ただ今現役 海ぶどうで

地域の活性化

長崎輝義氏(宮古地区協)を訪ねて



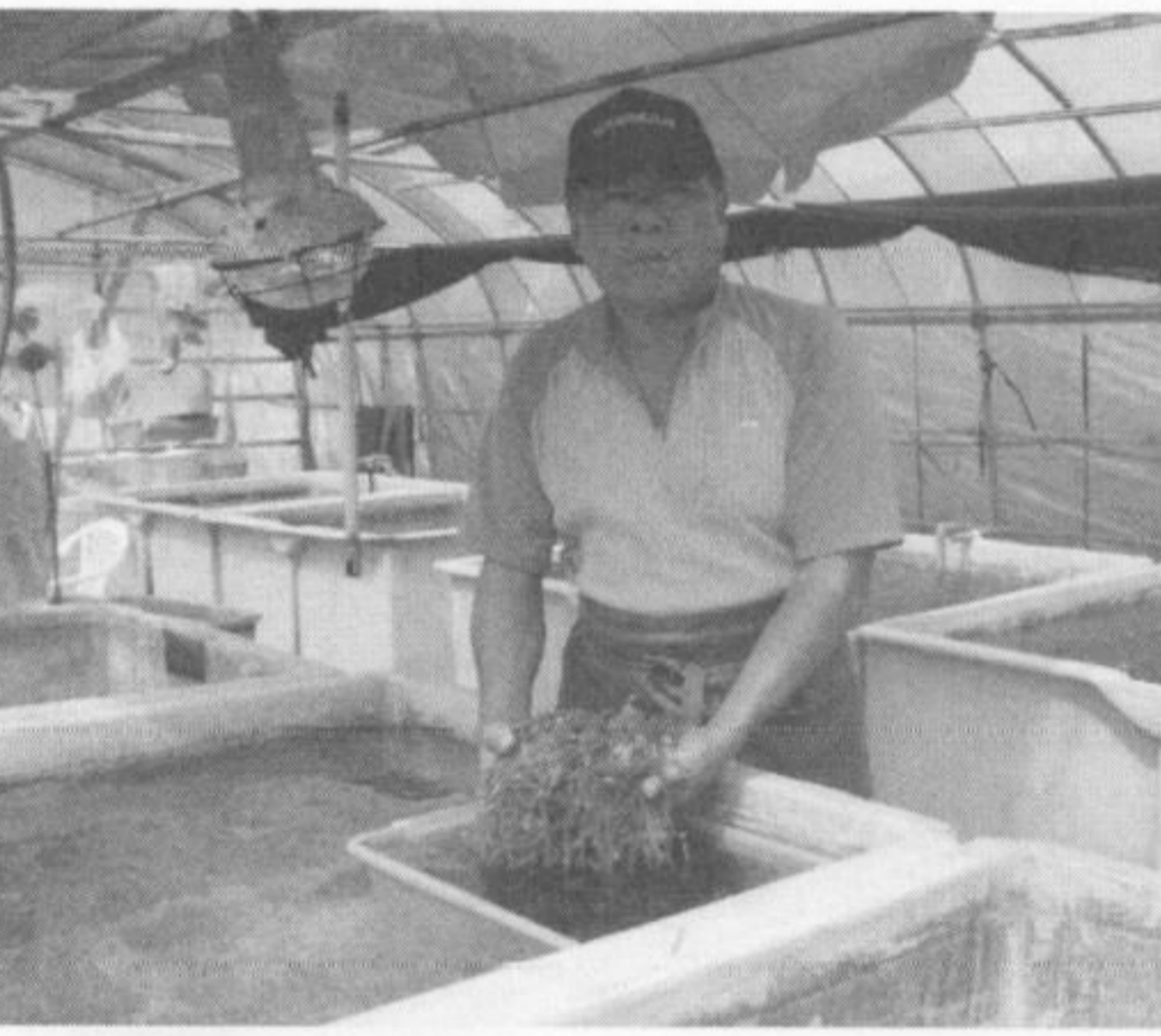
長崎輝義さん

私が、海ぶどうの養殖をしている「長崎シーファーム(代表・長崎輝義氏・64歳)」を訪れたのは、三月下旬の宮古地区協総会の翌日でした。

海ぶどうは、琉球列島など亜熱帯地方に分布し、ミネラル豊富な海水と、十分な太陽光のもとで育つ「海藻」です。以前は、宮古島の

海辺で獲れ自然食として食されてきました。カルシウム、鉄分、ビタミン類、ミネラル分を多く含んでいます。また、低カロリーであることから、健康志向の市場ニーズもあり、安定的に出荷出来るようにするため、今ではほとんどが養殖となっています。

養殖場は陸上にあり、ビニールハウスで黒網(ネット)を掛け、海水の温度、太陽光の調整・管理と気が抜けないとのことでした。



ちなみに、海水は二十五〜三十度、太陽光は一万五千〜二万五千ルクスが保てるようにしているとの話でした。二〇〇四年の立ち上げ当初は、知識もそれほどなく、石垣市へ二週間ほど、さらに沖縄本島へと研修に行き、データとにらめっこで、市の協力があつたとは言え、自然も相手にしなくてはならず、大変苦労したとのことでした。私が取材した頃は、県内は日照不足で、特に先島はひどく、農作物も被害が甚大とマスコミでも報道されていました。

雨が降ると、海水の濃度が下がり、また光合成も落ちるので、養殖場のビニールを掛けたり外したり、夏は夏で、海水温が上がらないよう、かつ、太陽光が多くなるらないよう遮光時間を計算しながらネットの調整など、手作業が大変で、毎

朝六時半には養殖場に着き、見回っているとのこと。母藻を植付けて夏はひと月、冬は二ヶ月で収穫でき、今では地元のサンエーや、かねひで、居酒屋に出荷し、さらに一部は他府県に販売するほどになっています。

同機は、米連邦航空局のヘリの安全基準に抵触するため米国内では、民間機としては飛行できません。日本国内では、防衛省が過去、同機の購入計画を検討しましたが、安全性に問題ありとして「購入計画から排除」されています。

事務局だよ!

千九〇六・〇〇一三 宮古島市平良市字下里九〇一・一 FAX 〇九八〇・七五〇六二〇 〇六二〇 携帯 〇九〇・四四七〇 五四六四(長崎)

▼オスプレイについては、この一週間新聞に掲載しているのによく知っていることと思えますが、一言。同機は、CH-46ヘリに比べて、2倍の速度、航続距離は、空中給油すれば5倍の三七〇〇kmを飛び、最大積載量も3倍で二四名の完全武装兵士を運べると紹介されています。ところが、試作機の開発段階で三〇名余の兵士を死亡させて「未亡人製造機」と呼ばれ、有名な「タイム誌」には、「空飛ぶ恥」と紹介されました。安全性については、現在でも、疑念の目で見られています。

海兵隊でも「海兵隊の要人輸送ヘリ」として候補に挙げられたが、「安全性に問題あり」として除外されています。それが、沖縄に配備すると、いきなり「安全」であると言われても、信じることはできません。▼オスプレイを安全なヘリと言うために「防衛省が「事故分析チーム」を設置」しました。

自国で使用している軍事ヘリの事故調査で事故原因究明のために製造元の米国まで行くのは、少しは理解できる。軍事的なベールに包まれた「米軍使用中のヘリ」について、たとえ一〇〇名のヘリの専門家が一所懸命分析しても、「安全ではない」との「結論」を公式に出すことはできません。同盟国に対して失礼なことになるので、「同ヘリは、安全である」という結論しか出せません。15名の大人が茶番をやるうとしていきます。(長嶺)